

## 桜を植える会

岐阜教区第6組 推進員 堀場和弘

毎年桜の季節になると各地の桜祭りの案内が来ます。30年ほど前になりませんが「夫婦の桜を植える会」と言う団体とご縁が出来ました。その会は大阪に拠点があり、コーヒー店のご主人夫妻が1本の桜を植えたことが始まりでした。毎日コーヒーを飲みに来るお客さん達に「結婚記念の桜」を京都の美山町に植えた事を楽しそうに話しました。その内に多くの賛同者が出来、皆で桜を植えようと話がまとまりましたが何処にでも勝手に桜を植えるわけにもいきません。

つてを頼り探しに探した結果なんと弘法大師の町、和歌山県の高野町に植えさせて貰える事になったそうです。そしてその会は、多くの人に皆で一緒に記念の桜を植えましょうと呼びかけ私にも誘ってくれました。弘法大師の居られる高野山に桜が植えられる。なんと素晴らしい事かと心躍る思いでした。このチャンスを逃して成るものかと早速私は申し込みました。

私たち夫婦が初めて桜を高野山に植えたのは、平成八年春のことでした。三人の息子が授かり健康にも恵まれ、豊かな社会の中で家族仲良く暮らさせていただく、この幸せがこれからも続きますようにとの願いと感謝を込めて「結婚三十年桜」と名付けて植えました。その後、母の八十歳を記念し「傘寿の桜」を息子の結婚、初孫の誕生、私たち夫婦の還暦等々、人生の節目にその時々のおみや未来への願いを託して毎年桜を植え続けました。このようにして植えた桜は、全部で10本となり植えた場所も高野山をはじめ京都熊野若王子神社、花脊の里、木會妻籠宿近くの蘭苑（あららぎえん）と4箇所となっています。最初に植えた桜は、年々枝葉を伸ばし美しい花が咲き花見が楽しめるようになりました。

桜の名は、「陽光」と言い山桜との交配種です。花は、ソメイヨシノより少し赤く寿命は、百年以上と言います。

傘寿（さんじゅ）の桜を植えた母は、3年前大正、昭和、平成3代100年を生き多くの孫や曾孫（ひまご）に送られて彼岸へ旅立って行きました。戦中、戦後の大変厳しい時代を生き抜き私達4人の子供を育ててくれました。有り難い事だと思っています。

春は桜の季節、一緒に植えた全国の同好の友と植樹地で再会出来るのも人生の喜びの一つとなっていました。それが今年は「コロナウイルス」の関係で花見の会が総て中止となりました。何と淋しい事でしょう。でも桜は来年も咲きます。それを楽しみにして元気に暮らして行きたいと思っています。